令和６年能登半島地震
高槻市消防本部活動報告書

高槻市消防本部

令和７年５月

はじめに

この度の石川県能登地方を震源とする地震により犠牲になられた方へ哀悼の意を表するとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

また、被災地の１日も早い復興・復旧を職員一同心よりお祈りいたします。

１　令和６年能登半島地震の概要

（１）発生日時　　令和６年１月１日（月）　１６時１０分頃

（２）震源及び規模

ア　場所：石川県能登地方（北緯 37.5 度、東経 137.3 度）

イ　規模：マグニチュード 7.6

ウ　震源の深さ：約 16ｋｍ

（３）各地の震度（震度５強以上）

ア　石川県　震度７　志賀町、輪島市

震度６強　七尾市、珠洲市、穴水町、能登町

震度６弱　中能登町

震度５強　金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町

イ　新潟県　震度６弱　長岡市

震度５強　新潟市中央区、新潟市南区、新潟市西区、新潟市西蒲区、三条市、柏崎市、見附市、燕市、糸魚川市、妙高市、上越市、佐渡市、南魚沼市、阿賀町、刈羽村

ウ　富山県　震度５強　富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村

エ　福井県　震度５強　あわら市

２　被害の状況

（１）人的被害

死者４１２名、行方不明者３名、重症３６４名、軽症９７７名

（２）住家被害

全壊６，４２５件、半壊２３，８９２件、一部破損１０６，２４８件

３　緊急消防援助隊大阪府大隊等の派遣状況

（１）出動状況

令和６年１月１日（月）～令和６年２月２日（金）　３３日間

※指揮支援隊（大阪市消防局）のみ令和６年２月２１日（水）まで活動

（２）出動部隊数

延べ出動隊　４６２隊　１５８９名

（３）派遣・活動先

石川県輪島市

（４）活動状況

ア　救出人員１３名（内２名生存）

イ　救急搬送人員２２３名

４　高槻市消防本部の派遣状況

（１）派遣期間

ア　令和６年１月　１日（月）～令和６年１月　５日（金）第１次派遣隊

イ　令和６年１月　５日（金）～令和６年１月　９日（火）第２次派遣隊

ウ　令和６年１月　８日（月）～令和６年１月１３日（土）第３次派遣隊

エ　令和６年１月１２日（金）～令和６年１月１７日（水）第４次派遣隊

オ　令和６年１月１６日（火）～令和６年１月２１日（日）第５次派遣隊

カ　令和６年１月２０日（土）～令和６年１月２５日（木）第６次派遣隊

キ　令和６年１月２４日（水）～令和６年１月２９日（月）第７次派遣隊

ク　令和６年１月２８日（日）～令和６年２月　２日（金）第８次派遣隊

ケ　令和６年２月　１日（木）～令和６年２月　２日（金）第９次派遣隊

コ　活動日数　３３日間

（２）派遣先

石川県輪島市

（３）派遣隊

ア　救助隊（救助工作車）　６隊３０名（第１～６次派遣隊）

イ　後方支援隊（支援車Ⅱ型）　９隊２０名（第１～９次派遣隊）

ウ　府指揮隊　１名（第６次派遣隊）

※大阪府大隊指揮隊の指揮要員として人員のみ派遣

エ　派遣人数　５１名

５　高槻市消防本部主な活動概要

（１）第１次派遣隊

ア　救助隊

輪島市内での捜索救助活動

イ　後方支援隊

宿営地（金沢競馬場）での車両管理、食事配布、ベッドセッティング、デコンタミネーション、施設清掃等

（２）第２次派遣隊

ア　救助隊

輪島市内での安否確認活動、輪島市三井町及び山岸町での捜索救助活動

イ　後方支援隊

宿営地（金沢競馬場及び河原田小学校）での車両管理、食事配布、ベッドセッティング、デコンタミネーション、除雪、施設清掃等

（３）第３次派遣隊

ア　救助隊

輪島市内での安否確認活動及び輪島市市ノ瀬町での捜索救助活動

イ　後方支援隊

宿営地（河原田小学校）での車両管理、食事配布、ベッドセッティング、デコンタミネーション、施設清掃、貯水槽への給水活動、物資・燃料調達等

（４）第４次派遣隊～第６次派遣隊

ア　救助隊

輪島市市ノ瀬町での捜索救助活動

イ　後方支援隊

宿営地（河原田小学校）での車両管理、食事配布、ベッドセッティング、デコンタミネーション、施設清掃、貯水槽への給水活動、物資・燃料調達等

（５）第７次派遣隊

後方支援隊

宿営地（河原田小学校）での車両管理、食事配布、ベッドセッティング、デコンタミネーション、施設清掃、貯水槽への給水活動、物資・燃料調達等

（６）第８次派遣隊

後方支援隊

宿営地（河原田小学校）での車両管理、食事配布、ベッドセッティング、デコンタミネーション、施設清掃、貯水槽への給水活動、物資・燃料調達等

（７）第９次派遣隊

後方支援隊

備品及び車両の引揚

6　高槻市消防本部派遣隊の活動時系列

日	時間	活動状況
1/1	16：10	石川県能登半島で震度７の地震発生
	16：30	消防庁長官から緊急消防援助隊出動の求め
	17：30	消防庁長官から大阪府知事に対し緊急消防援助隊出動の求めから指示
	18：45	派遣調整本部設置
	19：40	大阪府大隊（即応隊）に出動要請（集結場所：大阪市消防局高度専門教育訓練センター）
	20：39	中救助隊出動
	21：05	中救助隊　大阪府大隊集結場所（大阪市消防局高度専門教育訓練センター）に到着
	22：45	大阪府大隊集結完了　進出拠点（金沢競馬場）に向け出発
2	0：50	後方支援隊出動要請（集結場所：大阪市消防局高度専門教育訓練センター）
	2：10	後方支援隊出動
	2：50	後方支援隊　大阪府大隊集結場所（大阪市消防局高度専門教育訓練センター）に到着
	4：00	後方支援中隊集結完了　進出拠点（金沢競馬場）に向け出発
	5：00	大阪府大隊　進出拠点（金沢競馬場）に到着
	10：20	後方支援隊　進出拠点（金沢競馬場）に到着
	11：15	金沢競馬場から輪島市に向け出発
	12：15	金沢競馬場を５日までの宿営地と決定
	14：30	能登里山街道（徳田大津 I.C）より先が通行困難のため金沢競馬場に引き返す
	18：50	高槻救助隊３名含む大阪府大隊救助隊 24 名が自衛隊ヘリにて輪島市にフライト準備
	20：30	悪天候によりフライト中止
3	4：30	後方支援隊　後方支援活動開始
	8：00	高槻救助隊３名含む大阪府大隊救助隊 24 名が自衛隊ヘリにて輪島市にフライト準備
	10：30	悪天候によりフライト中止
	12：30	救助隊　陸路で穴水消防署に向け出発
	18：00	救助隊　穴水消防署に到着
	18：51	救助隊　穴水消防署から輪島市に向け出発（小型車両に乗り換え）
	22：40	救助隊　輪島市に到着（宿営地：河原田小学校）
4	4：30	後方支援隊　後方支援活動開始
	7：00	救助隊　輪島市市ノ瀬地区で捜索救助活動開始
	10：30	後方支援隊　穴水経由で輪島市内に進出するため金沢競馬場を出発
	15：15	後方支援隊　穴水消防署に到着
	16：30	後方支援隊　周辺道路が通行困難であったため金沢競馬場に引き返す
	20：40	救助隊　活動終了
	22：10	後方支援隊　金沢競馬場に到着

		第１次派遣隊	第２次派遣隊
5	6：30	後方支援隊　後方支援活動開始	
	6：36		第２次派遣隊出動
	7：30		大阪府大隊集結場所に到着 （大阪市消防局高度専門教育訓練センター）
	8：00		大阪府大隊集結完了・集結場所出発
	12：00	救助隊　航空自衛隊輪島分屯基地に向け出発	
	12：40	救助隊　航空自衛隊輪島分屯基地に到着	
	13：00		石川県西部緑地公園に到着 ※救助隊のみ西部緑地公園で下車、自衛隊ヘリで航空自衛隊輪島分屯基地に移動 ※救助隊以外はバスで金沢競馬場に移動
	13：30		救助隊のみ自衛隊ヘリで航空自衛隊輪島分屯基地に向け出発
	14：10	第２次派遣隊と引継ぎ	救助隊　航空自衛隊輪島分屯基地に到着
	14：20	救助隊　自衛隊ヘリで石川県西部緑地公園に向け出発	
	14：30		救助隊　宿営地（河原田小学校）に向け出発
	14：50	救助隊　石川県西部緑地公園に到着	
	15：20		救助隊　宿営地に到着
	15：20	救助隊　金沢競馬場に到着	
	15：35		後方支援隊　金沢競馬場に到着
	16：55	現地引揚	
	21：30	消防本部に到着	
6	6：30		後方支援隊１名　他市車両で宿営地に向け出発
	8：00		救助隊　輪島市で捜索救助活動開始 三井町にて倒壊家屋内から要救助者１名救出
	13：00		後方支援隊残りの１名　他市車両で宿営地に向け出発
	15：45		救助隊　宿営地に帰還
7	7：00		救助隊　輪島市で捜索救助活動開始
	15：10		救助隊　宿営地に帰還
	17：40		救助隊　駐車中の車両引取りのため穴水消防署に向け出発

	21：30		救助隊　宿営地に帰還
8	7：00		救助隊　輪島市で捜索救助活動開始
		第３次派遣隊	
	15：30	第３次派遣隊出動	
	16：30	大阪府大隊集結場所に到着 （大阪市消防局高度専門教育訓練センター）	
	17：30	大阪府大隊集結完了・集結場所出発	
	20：15		救助隊　宿営地に帰還
9	0：15	金沢競馬場に到着（仮眠） ※後方支援隊は高槻特災１を石川県立消防学校に移動後、再度金沢競馬場に戻る	
	5：00	日本航空高等学校石川に向け出発	
	8：00	日本航空高等学校石川に到着	
	8：40		日本航空高等学校石川に向け出発
	9：40		日本航空高等学校石川に到着 （第３次派遣隊と引継ぎ）
	10：50		現地引揚
	11：35	宿営地（河原田小学校）に向け出発	
	13：35	宿営地に到着	
	15：30	救助隊　輪島市で捜索救助活動開始 後方支援隊　後方支援活動開始	
	18：45		消防本部に到着
	20：20	救助隊　宿営地に帰還	
10	6：00	後方支援隊　後方支援活動開始	
	8：00	救助隊　輪島市で捜索救助活動開始 山岸町にて倒壊家屋内から要救助者１名救出	
	15：30	救助隊　宿営地に帰還	
11	5：00	後方支援隊　後方支援活動開始	
	8：00	救助隊　輪島市で捜索救助活動開始	
	17：30	救助隊　宿営地に帰還	
12	5：00	後方支援隊　後方支援活動開始	
	13：00	救助隊　輪島市で捜索救助活動開始	
			第４次派遣隊
	15：00		第４次派遣隊出動
	16：10		大阪府大隊集結場所に到着

			（大阪市消防局高度専門教育訓練センター）
	17：00		大阪府大隊集結完了・集結場所出発
	17：45	救助隊　宿営地に帰還	
	23：30		石川県立消防学校に到着（仮眠）
13	5：00	後方支援隊　後方支援活動開始	日本航空高等学校石川に向け出発
	6：30	日本航空高等学校石川に向け出発	
	7：30	日本航空高等学校石川に到着 （第４次派遣隊と引継ぎ）	日本航空高等学校石川に到着
	9：00	現地引揚	
	9：30		宿営地（河原田小学校）に向け出発
	11：30		宿営地に到着
	13：30		救助隊　悪天候のため活動困難と判断 ※翌日以降の活動に備え、市ノ瀬町及び輪島市街を現地確認
	14：00		後方支援隊　後方支援活動開始
	16：50	消防本部に到着	
14	5：00		後方支援隊　後方支援活動開始
	12：30		救助隊　輪島市市ノ瀬町で捜索救助活動開始
	17：30		救助隊　宿営地に帰還
15	5：00		後方支援隊　後方支援活動開始
	7：00		救助隊　市ノ瀬町にて先遣現地確認 ※現地確認の結果、活動危険ありのため終日活動困難と判断
16	5：00		後方支援隊　後方支援活動開始
	7：00		救助隊　市ノ瀬町にて先遣現地確認 ※現地確認の結果、活動可能と判断し捜索救助活動開始
		第５次派遣隊	
	15：00	第５次派遣隊出動	
	16：00	大阪府大隊集結場所に到着 （大阪市消防局高度専門教育訓練センター）	
	17：00	大阪府大隊集結完了・集結場所出発	救助隊　市ノ瀬町の土砂埋没家屋内で土砂に埋もれ、指先だけが見えている状態の要救助者発見（救出には至らず→1 月 21 日救出）
	20：00		救助隊　宿営地に帰還

	23：00	石川県立消防学校に到着（仮眠）	
17	5：00	日本航空高等学校石川に向け出発	後方支援隊　後方支援活動開始
	6：30		日本航空高等学校石川に向け出発
	8：00	日本航空高等学校石川に到着	
	8：30		日本航空高等学校石川に到着 （第５次派遣隊と引継ぎ）
	9：30	宿営地（河原田小学校）に向け出発	現地引揚
	11：30	宿営地に到着	
	13：30	市ノ瀬町の土砂埋没家屋で救助活動開始	
	16：40	宿営地に帰還	
	17：30		消防本部に到着
18	7：00	救助隊　市ノ瀬町にて先遣現地確認 ※現地確認の結果、活動危険ありのため終日活動困難と判断	
	12：10	救助隊　輪島朝市大規模火災現場で火災原因調査活動	
	16：30	救助隊　宿営地に帰還	
19	8：30	救助隊　市ノ瀬町で救助活動開始	
	16：30	救助隊　宿営地に帰還	
20	7：30	救助隊　市ノ瀬町で救助活動開始	
			第６次派遣隊
	14：55		第６次派遣隊出動
	15：55		大阪府大隊集結場所に到着 （大阪市消防局高度専門教育訓練センター）
	16：45	宿営地に帰還	
	17：00		大阪府大隊集結完了・集結場所出発
	22：45		石川県立消防学校に到着（仮眠）
21	5：00		日本航空高等学校石川に向け出発
	6：45	日本航空高等学校石川に向け出発	
	7：30	日本航空高等学校石川に到着 （第６次派遣隊と引継ぎ）	日本航空高等学校石川に到着
	8：30	現地引揚	宿営地（河原田小学校）に向け出発
	9：50		宿営地に到着
	10：00		後方支援隊　後方支援活動開始
	11：25		救助隊　市ノ瀬町で救助活動開始

	16：15	消防本部に到着	
	18：30		救助隊　市ノ瀬町の土砂埋没家屋から要救助者１名救出とともにもう１名発見（1 月 22 日救出）
	23：35		救助隊　宿営地に帰還
22	7：00		後方支援隊　後方支援活動開始
	13：45		救助隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始
	17：40		救助隊　宿営地に帰還
23	6：00		後方支援隊　後方支援活動開始
	8：00		救助隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始
	16：10		救助隊　宿営地に帰還
24	5：30		後方支援隊　後方支援活動開始
	8：00		救助隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始
		第７次派遣隊	
	15：00	第７次派遣隊出動	
	16：20	大阪府大隊集結場所に到着 （大阪市消防局高度専門教育訓練センター）	
	16：55	大阪府大隊集結完了・集結場所出発	
	18：00		救助隊　宿営地に帰還
25	1：00	石川県立消防学校に到着（仮眠）	
	5：20		後方支援隊・府指揮隊員　石川県立消防学校に向け出発
	8：30		後方支援隊・府指揮隊員　石川県立消防学校に到着 （第７次派遣隊と引継ぎ）
	8：50		救助隊　現地引揚
	9：30		後方支援隊・府指揮隊員　現地引揚
	10：00	宿営地（河原田小学校）に向け出発	
	14：00	宿営地に到着	
	15：00		後方支援隊・府指揮隊員　消防本部に到着
	19：30		救助隊　消防本部に到着
26	8：00	活動隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始	
	17：00	活動隊　捜索救助活動終了	
27	8：00	活動隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始	
	17：00	活動隊　捜索救助活動終了	

28	8：00	活動隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始	
			第８次派遣隊
	15：00		第８次派遣隊出動
	16：20		大阪府大隊集結場所に到着 （大阪市消防局高度専門教育訓練センター）
	16：50		大阪府大隊集結完了・集結場所出発
	17：00	活動隊　捜索救助活動終了	
	22：40		石川県立消防学校に到着（仮眠）
29	5：00		日本航空高等学校石川に向け出発
	6：20	日本航空高等学校石川に向け宿営地出発	
	7：30		日本航空高等学校に到着
	8：30		宿営地（河原田小学校）に向け出発
	9：30		宿営地に到着
	10：30		活動隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始
	16：10	消防本部に到着	
	17：00		活動隊　捜索救助活動終了
30	8：00		活動隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始
	17：00		活動隊　捜索救助活動終了
31	8：00		活動隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始
	17：00		活動隊　捜索救助活動終了
1	8：00		活動隊　市ノ瀬町で捜索救助活動開始
	9：00		後方支援隊　宿営地撤収作業
	12：00		活動隊　捜索救助活動終了
		第９次派遣隊	
	14：15	第９次派遣隊出動	
	15：30	大阪府大隊集結場所に到着 （大阪市消防局高度専門教育センター）	
	15：45	大阪府大隊集結完了・集結場所出発	
	22：00	石川県立消防学校に到着（仮眠）	
2	4：00	日本航空高等学校石川に向け出発	
	6：00		日本航空高等学校石川に向け出発
	6：20	日本航空高等学校石川に到着	
	7：30	河原田小学校に向け出発	
	7：45	河原田小学校に到着	
	8：00		現地引揚

	8：10	輪島市街地視察	
	11：00	現地引揚	
	15：40		大阪市消防局高度専門教育訓練センターに到着
	16：00		大阪府大隊解隊式
	17：20		消防本部に到着
	21：00	消防本部に到着	

派遣隊一覧					
第１次派遣隊 令和６年１月１日～令和６年１月５日					
救助隊			後方支援隊 ※後方支援隊は１月２日から派遣		
中消防署 警備第一課	消防司令	中村　淳	消防総務課	消防司令	岸田　優一
	消防司令補	星川　雅英		消防司令補	健　瑛二
	消防士長	中村　翼	警防課	消防士長	沼田　大貴
	消防士	大脊戸　飛翔			
	消防士	北角　航大			

第２次派遣隊 令和６年１月５日～令和６年１月９日					
救助隊			後方支援隊		
中消防署 警備第二課	消防司令補	坂上　紀之	救急課	消防司令補	木村　誠一
	消防司令補	渡邊　敏彦	予防課	消防士長	杉本　優太
	消防士長	福原　良太			
	消防士	武田　直也			
	消防士	深江　祐樹			

第３次派遣隊 令和６年１月８日～令和６年１月１３日					
救助隊			後方支援隊		
北消防署 警備第一課	消防司令補	北側　健太	予防課	消防司令	杉内　俊之
中消防署 警備第一課	消防司令補	櫻井　真央	警防課	消防司令補	伊佐敷　翼
	消防士長	八木　博之			
	消防士長	浦谷　剛史			
北消防署 警備第二課	消防士	宮林　孝介			

第４次派遣隊 令和６年１月１２日～令和６年１月１７日					
救助隊			後方支援隊		
中消防署 警備第二課	消防司令	高垣　良宏	警防課	消防司令	山下　圭司
北消防署 警備第二課	消防司令補	今井　雅文	予防課	消防士長	嶽　泰治
北消防署 警備第一課	消防司令補	池田　悟志			
中消防署 警備第二課	消防士	磯崎　章裕			
	消防士	竹内　哲士			

第５次派遣隊 令和６年１月１６日～令和６年１月２１日					
救助隊			後方支援隊		
北消防署 警備第二課	消防司令	下岡　哲也	消防総務課	消防司令補	髙木　崇
中消防署 警備第一課	消防司令補	星川　雅英	予防課	消防士長	松本　大樹
	消防士長	中村　翼			
中消防署 警備第二課	消防士	武田　直也			
北消防署 警備第一課	消防士	中山　慎也			

第６次派遣隊 令和６年１月２０日～令和６年１月２５日					
救助隊			後方支援隊		
北消防署 警備第一課	消防司令	髙穂　晃貴	警防課	消防司令	田中　康則
中消防署 警備第二課	消防司令補	坂上　紀之	消防総務課	消防士長	石田　智士
中消防署 警備第一課	消防士長	八木　博之	府指揮隊		
中消防署 警備第二課	消防士長	福原　良太	警防課	消防士長	仁科　慶亮
北消防署 警備第二課	消防士	坂田　裕徳			

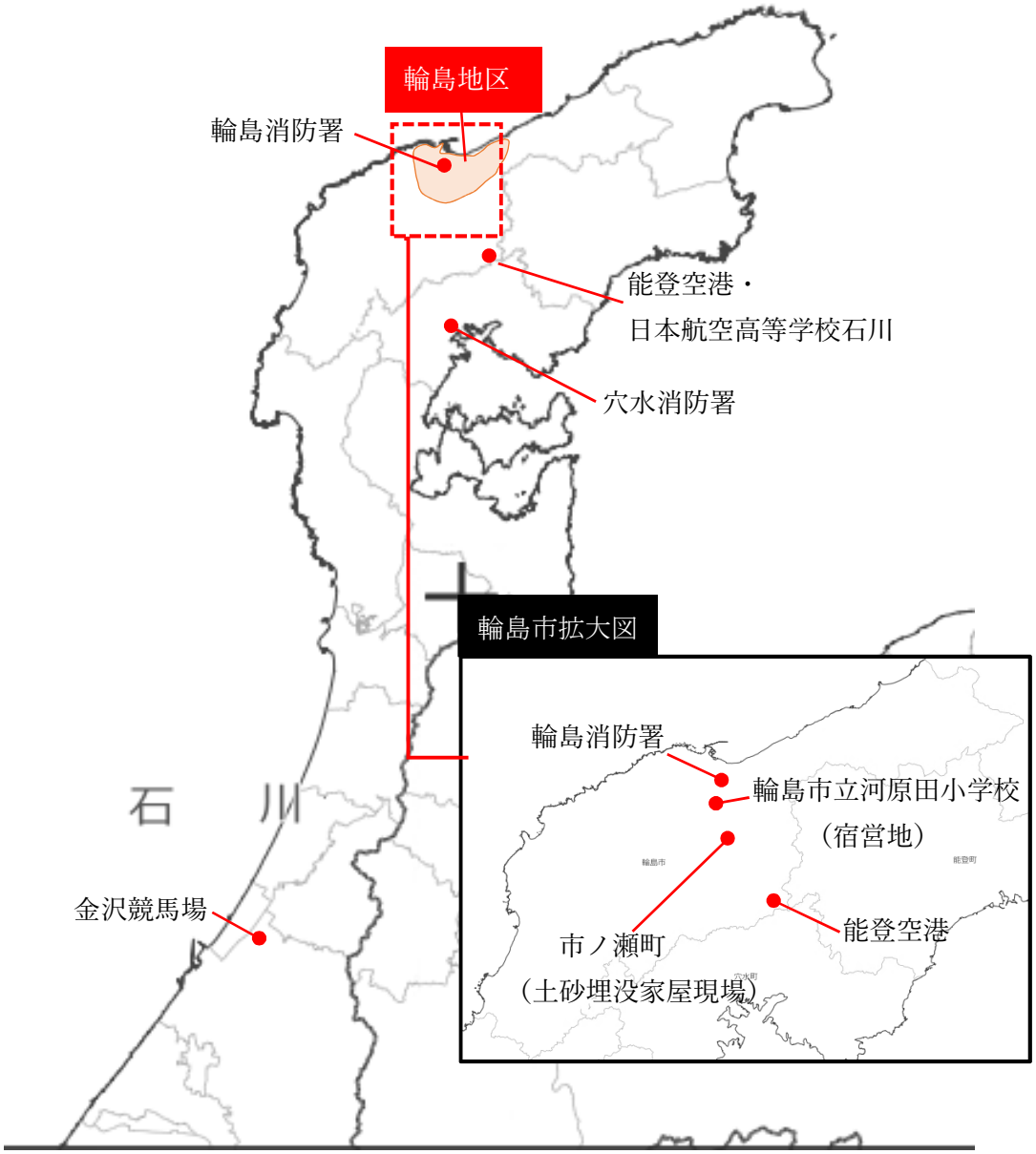
第７次派遣隊 令和６年１月２４日～令和６年１月２９日			
救助隊	後方支援隊		
	救急課	消防司令	村上　典章
	警防課	消防士長	安原　努

第８次派遣隊 令和６年１月２８日～令和６年２月２日			
救助隊	後方支援隊		
	指令調査室	消防司令	辻　晶夫
	中消防署 警備第二課	消防士長	神村　徹人

第９次派遣隊 令和６年２月２日～令和６年２月２日			
救助隊	後方支援隊		
	警防課	消防司令補	乾　裕佐
	中消防署警備第一課富田分署	消防士長	北村　憲司
	北消防署 警備第二課	消防士長	辻河　孝典

※所属・階級については派遣時のもの
※下線＿は２巡目の派遣

主な活動地域


輪島地区
輪島消防署
能登空港・
日本航空高等学校石川
穴水消防署
輪島市拡大図
輪島消防署
輪島市立河原田小学校
（宿営地）
市ノ瀬町
（土砂埋没家屋現場）
能登空港
石　川
金沢競馬場

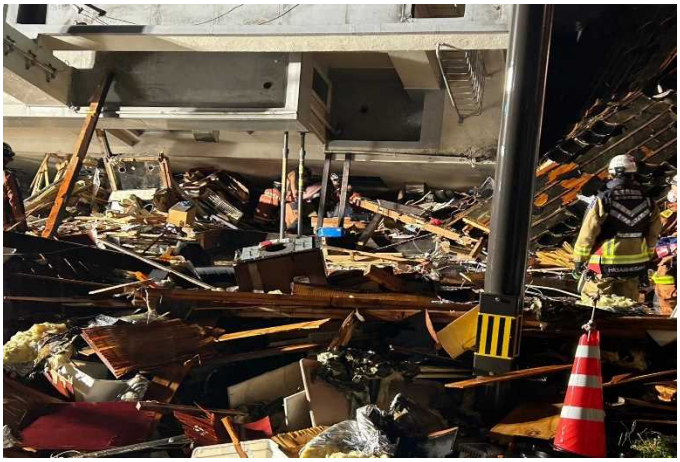
写真報告

TAKATSUKI F.D.
RESCUE

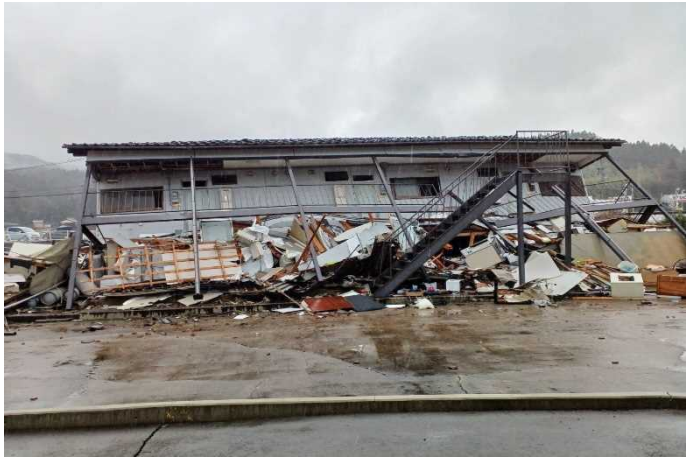
高槻市消防本部
支援2

FIRE DEPARTMENT
TAKATSUKI

YAO
FIRE DEPT

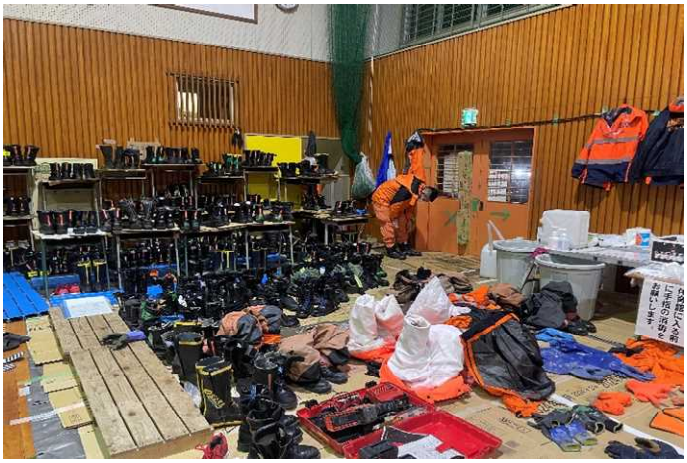


SAKAI FIRE BUREAU
堺市消防局
大阪市
消防局



OSAKA
消防局
西区

大阪市消防局
うがい
手を洗う



手を洗う

【派遣隊員所感（一部抜粋）】

●私は第１次派遣隊と第５次派遣隊として派遣され、とても貴重な経験をさせていただきました。第１次派遣では当務中に派遣されることなり、出動するまで時間がなく、資器材選定や個人装備の準備は勿論のこと気持ちも準備できないまま出動しました。やはり、消防職員としてどんな時も有事に備え日頃からの準備が大事だと改めて感じました。

高度専門教育訓練センターに集結し、金沢競馬場に向かうまでは、被災場所がどのような状況なのか全くわからない状況であたったため、どんな活動をするのか不安な部分もありましたが、高槻市の代表として派遣されている以上、被災場所で一人でも多くの人を救出しなければという思いが高まっていました。

金沢競馬場に到着してからは道路状況が思った以上に悪かったため、被災場所に行くまでに数日間かかりました。第１次派遣では待機や車両での移動時間が長く想像していた様な活動がほとんど出来ませんでしたが、第２次派遣隊に繋がる重要な役割だったと感じました。

第５次派遣では、第４次派遣隊が活動していた市ノ瀬地区の土砂災害の現場へ向いました。現場では土砂に埋もれている要救助者の救出作業にあたりましたが、二次災害の危険も多く思ったように活動が進まず、最終的には活動中止となり救出出来ずに終わってしまいました。目の前にいる要救助者の救出を諦めることを選択した活動はとても過酷なものでした。あの時感じた感情を忘れることなく、今後の活動に活かしたいと思います。また、この経験を自分で留めることなく、後輩に伝えていきたいと思います。

●私は、第１次派遣隊として被災地へ行きました。発災から間もないこともあり、道路が寸断され被災地へたどり着いたのは１月３日の２２時頃でした。人命救助におけるタイムリミットは約７２時間であり、一人でも多くの人を助けたいという思いで１月４日にようやく活動できましたが、要救助者は発見できず不完全燃焼のまま帰隊しました。しかし、学ぶことや感じることが多い派遣でした。他の消防本部と実災害で交わることは中々できる経験ではなく、コミュニケーションを図りながら活動できました。また、ライフラインが途絶えている中で生活する大変さも身をもって体感し当たり前を当たり前と思ってはいけないことも感じました。この貴重な経験を私の今後の消防人生に活かしていくとともに、次の世代へと伝えていきます。

今回、緊急消防援助隊として経験したことは自分の消防人生でのターニングポイントになりました。自分の行動を見つめ直し、一人でも多くの人を助けるために学び続けていこうと思います。

●私は、これまで二度の緊急消防援助隊での活動経験があり、大阪府大隊は後方支援隊が支えていると感じていました。今回、私は第１次後方支援隊として派遣され、これまでの経験を生かし全力で取り組みました。宿営地が二転三転するなどで現場活動隊を直接サポートする機会が少なく、歯がゆい思いをしましたが、後続隊に繋がる活動ができたのではないかと感じています。今回の経験を基に、後方支援隊の底上げができればと考えます。

●残念ながら私が携わった現場で、要救助者の生存救出はかなわなかったが、全隊員が少しでも早く、少しでも多くの要救助者をご家族のもとに帰してあげたいという思いで、自分たちに今できることを全力でやりきるという思いが伝わるような大阪府隊らしい活動で、常に被災地に寄り添った活動を続けることができたと感じている。この大災害により亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災地の一刻も早い復興と復旧を願うとともに、この経験を活かすことができるよう、今回の派遣で見たこと・聞いたこと・感じたことを少しでも多くの人々に伝えていきたい。

●私にとって今回は初めての災害派遣となりました。現場に行くと想像をはるかに超える悲惨な現場を目の当たりにし、自然の猛威を感じました。生存救出することはできず悔いの残る活動にはなりましたが、私自身現場を通じて学べたことも多くありました。派遣されたから経験できたこと、感じたことなどを多くの職員に伝え、共有することにより、今後の災害対応の糧にします。

●私は、緊急消防援助隊第２次派遣隊・後方支援隊として派遣されました。私自身、消防人生で初めての緊急消防援助隊派遣であり、比較的初期段階での派遣でしたので、不安に思うこともありましたが、「被災者のために」という強い意志で現地に向かいました。私の主任務は後方支援活動でしたが、輪島朝市での捜索活動等も行いました。要救助者の発見には至りませんでしたが、被災地の現状を肌で感じ、防災職員としての意識が変わりました。この貴重な経験と、現在も被災者の方々が大変な生活を送っているということを忘れず、今後の消防活動に活かしたいと思います。

●ライフラインの壊滅、過酷な気象状況、現地での活動は想像以上に過酷なものでした。発災から７２時間以上が経過しており、生存者の救出は難しい状況でしたが、一人でも多くの行方不明者を発見し家族のもとへ帰してあげたいという強い思いで活動しました。安全管理上、夜間の活動はありませんでしたが、活動自体を２４時間継続しながら交代で休憩するなどして、大阪府隊の消防力をもっともっと提供できたのではないかと自問自答しながら帰阪しました。今後、反省点や改善点を洗い出し、検証し、訓練し、有事に１００％の力を発揮できるように常に備えていかなければならないと強く感じました。

●私は第３次及び第６次派遣隊員として輪島市へ出動しました。被災地はテレビのニュースで見るより道路状況も悪く、今にも倒壊しそうな建物が多くあり、ここで生活している方のことを考えると心が痛くなりました。宿営地では水道はまだ断水状態でしたが、電気は通っており、屋根もあり、暖房器具があり、ベッドがあり、毛布があり、後方支援の方の強力なバックアップがあり、活動に集中することができました。活動はローラー作戦による安否確認及び土砂埋没現場での救出活動でした。大隊長はじめ指揮隊が色々なことを考え、より効率よく、早く発見救出する方法を選定されたのだと思いますが、もっと活動したい、まだまだやれる。と思うことも正直あり、歯痒さもありました。この想い、感じたことは今後の活動に活かしていきたいと思いました。

●初めて緊急消防援助隊として派遣され、ライフラインが制限された中での生活や活動の困難さを身に染みて実感しました。断水状態だったため、火事を消すにも消火栓が使えない、

宿営地の清潔を保つためには、どうすれば良いのか、など色々なことを考えさせられました。
　今回は電気が使えましたが、使えない場合はどんな事が起きて、何をしないといけないのか。その時々の状況でより良い活動ができるように、これからもずっと常に考えて続けていかなければならないのだと再認識する経験となりました。
●私は大阪府隊の第４次派遣隊として派遣され、現地では土砂災害の救助活動に取り掛かりました。土砂に巻き込まれた家には２名の要救助者がいるとの情報があり、要救助者のご家族が近くで見守るなかでの救助活動となったため、ご家族に対する配慮とともに、私自身もなんとか早く助け出してあげたいという思いで活動にあたりました。今回の地震では多くの方が家や家族を失っており、残されたご家族の方たちも要救助者であるということを痛感しました。この経験を忘れずにこれからも現場活動に励んでいきたいと思います。
●今回の災害派遣を通して、想像を遥かに超える悲惨な状態に理解するのに時間がかかったのを覚えています。同時に、必ず要救助者を救出し、被災された方々の力になってやると強い思いで現場対応に挑みました。
　最終日に要救助者を発見することができ、親族に感謝の言葉をもらいましたが、救出まで辿りつくことができなかったことが心残りでした。
　被災された方々は、まだ苦しい生活を強いられているなか帰隊するのは、心が痛む思いでいっぱいでした。この思いを忘れずに今後の生活に生かしていきたいと思います。
●報道では、救助隊員が災害現場で検索活動を行っている姿が報じられることがほとんどですが、その影には救助隊員が活動に力を注げるよう食事を提供し、また、活動後に次の出動に向けて休息できるよう室内環境を整備等、様々な業務を想像以上に細分化していることに驚きました。今回の活動で一人ひとりの業務として、できることは限られていますが、それぞれの小さな力が集まれば、大阪府大隊として大きな力になることを感じました。
●この度、緊急消防援助隊大阪府大隊第５次派遣隊の一員として石川県輪島市で活動させて頂きました。マスメディアで得ていた情報はごく一部で、実際に現場に行くと想像より遥かに甚大な被害を受けている印象でした。第五陣の活動としては土砂で押し流された家屋の中にいる要救助者を探し出し救出するというものでした。家屋の壁や床、家具が土砂に埋められ救出活動は困難なものでした。その中で要救助者を発見したが現場にはいつ崩れてきてもおかしくないような大きな岩が活動障害となりそれ以上は進めることができず、要救助者の上に板の蓋を被せ活動することとなりました。まさか、目の前にいる要救助者に蓋をすることがあるとは思いもしませんでした。救出を待っている家族がいる中で第５次派遣隊は救出できないまま活動終了となりました。大阪府大隊が懸命な救出活動をしたことに変わりなく、決して間違ったものではなかったと思います。あの時、感じた悔しさや歯痒さを忘れることなく今後に繋げていくことが私たちにできる唯一のことだと思います。
●能登半島地震に伴う緊急消防援助隊派遣業務において、後方支援隊の炊事班に配属され、食事準備や宿営地の環境整備、資機材の搬送等の活動をしました。初日は、申し送りを受けた班長が不在の時間が長く、活動が滞った時間がありました。次隊がスムーズに活動できるように写真等を添付した申し送り簿を作成し情報共有する必要性が高いと実感しました。派

遣隊第５巡目だったため、宿営地や活動体制が統制されており、組織的に班分けすることで、より効率よく後方支援活動に従事できると感じました。
●今回、第６次派遣で後方支援隊として活動を行いました。派遣時では、いまだ行方不明者の検索が続き、天候により活動内容が随時変更される中、何とか要救助者を救出するため、大阪府大隊が一丸となり与えられた環境の中で、最善の活動ができるよう、常に前向きに流動的に対応していたことが印象に残っています。今後も災害活動が日々続いていきますが、今回の経験を活かし、迅速でより柔軟な対応ができるよう心掛けていきたいと思います。
●緊急消防援助隊大阪府隊第６次隊の一員として派遣されることが決定したとき、「自分が行っても役に立つことができるのか」と不安な気持ちでいっぱいになりました。また、「活動隊としての方が被災地に貢献できるのではないか」考えていましたが、実際に後方支援隊として活動してみると、活動隊の方々から感謝されることが多々あり、活動隊を支えることで被災地に貢献できているのだと感じました。
　今回の派遣で、後方支援活動がないと緊急消防援助隊が成り立たないものだと実感しました。今回の派遣の経験を活かし、高槻市でも貢献していきたいと思いました。
●私は第６次派遣隊として石川県輪島市へ派遣されました。ニュース等で被災地の状態は知っていましたが、いざ目の当たりにすると言葉が出ませんでした。
指揮隊の隊員として活動したことで、大阪府大隊全体を見渡すことが出来ました。役割ごとに隊が編成され、一人一人の活動が繋がり被災地のための活動となったのではないかと思います。今回の派遣で経験したことを、今後より多くの人に伝えていきたいと思います。
●私は大阪府大隊第７次派遣隊として派遣されましたが、私自身、緊急援助隊の派遣は初めてでした。
　後方支援隊として活動隊のフォローを主として活動しましたが、第７次派遣隊ということもあり、宿営地や炊事等しっかりとした形が形成されており、困ることはなかったですが、第１次・２次派遣隊では０から作り上げるので、凄く大変だろうと感じた。１次派遣隊は発災から７２時間ととても重要な役割を果たしており、被災地の方々の期待もより大きいと感じました。
　初めての参加ということもあり、第７次派遣隊で宿営地の完成形に近いイメージを持てたことは今後の派遣活動を考えると非常に重要なことであったと感じます。活動隊が早期に活動できる態勢を整えることは、被災地の多くの方々の支援にも繋がるものであるため、今回の経験を今後に繋げていきたいです。
●私は大阪府大隊第８次隊として、緊急消防援助隊として派遣されました。
　訓練、現場等含め初めての緊急消防援助隊であったため、携行品や現地での活動のイメージが付きにくかったですが、職場でのこれまでの経験が活かせたかと思います。
　活動としまして、第８次隊ではある程度、生活環境が整えられてはいたものの、悪路での車両運転、密集での就寝等、集中力や体力の回復の難しさを実感しました。
　後方支援隊としまして、救助活動、救急活動が円滑に行えるよう食事、宿営地の環境維持、清掃等普段職場で実施している延長であり、日頃の仕事環境を活かせたと思います。

●今回の派遣を通じて、被災地にとって緊急消防援助隊等の派遣隊がいかに必要とされているか、片鱗を感じることができました。前記のように感じた事柄が二つ、まず一つ目は被災地を走行中、何人もの方々が今にも倒壊しそうな家屋を整理されていました。私たちの車両を見かけるとこちらに身体を向け深々と頭を下げてくださいました。二つ目は帰阪途上石川県内のＳＡにおいて、わざわざ私たちの方に来られお礼を伝えてくださる方々がいました。すべては最終派遣隊までの方々が必死に全力で活動された結果が形になったことと思います。

●自治会訓練等を通じて「自助」の重要性をしっかりと伝えていかなければならないと感じました。

　私は、実際に災害現場を目の当たりにした時、想像以上の事態が発生しており衝撃を受けました。初見で築年数が浅いと思われる住宅が倒壊していたり、地割れにより住宅の基礎が破壊され家屋が倒壊するなど、状況は私の想像を上回るものでした。

　テレビでも報道されている通り、インフラの復旧には時間を要し迅速な公助に期待はできません。未曾有の事態が発生すると、同様に共助にも期待はできません。

　一般的に３日間の食糧備蓄等が必要とされ災害に備えている人は多数いると思いますが、食料だけで大丈夫なのか、生活を立て直すために必要な準備ができているか、今一度災害を想定し見つめなおし、自分たちの生活は自分たちで守る準備するように伝えていかなければならないと感じました。